

**平成31年度国際ヘルスケア拠点構築促進事業
(中国・大連市における日本式女性医療機関及び
人間ドックセンター設立プロジェクト)**

報告書

2020年2月

**中国・大連市における日本式女性医療機関及び
人間ドックセンター設立コンソーシアム
(代表団体:さがらウィメンズヘルスケアグループ)**

平成31年度国際ヘルスケア拠点構築促進事業
(中国・大連市における日本式女性医療機関及び人間ドックセンター設立プロジェクト)
報告書
— 目 次 —

第1章 事業概要.....	1
1－1. 背景・目的・効果.....	1
1－2. 事業の詳細・スキーム.....	2
1－3. 体制・スケジュール	4
第2章 事業実施内容と成果	7
2－1. 現地調査.....	7
2－2. 日本式女性医療機関及び人間ドックセンターの設立準備	12
2－3. 人材育成.....	37
第3章 まとめ	39
3－1. 事業成果.....	39
3－2. 課題.....	41
3－3. 今後の展開.....	41

第1章 事業概要

1-1. 背景・目的・効果

本事業の背景・目的・効果については以下のとおりである。

(1)背景

ア. 中国大連市の医療状況

中国・大連市の医療状況として、他の大都市と同様に、大連医科大学付属病院や大連大学付属病院といった大病院に軽傷から重症までの患者が集中し、その混雑状況から、医師も十分な診察時間が確保できず、患者に十分寄り添えていない医療サービスの提供が常態化している。中国では、問診受付時に指名料を支払い、口コミ等で評判の良い医師の診療を受けたがる傾向がある。大連医科大学付属病院では、早朝4時頃から専門医師指名のために、整理券取得に長蛇の列ができ、中には転売目的で取得する行為もある。IT化により以前より混雑状況は改善されているが、依然似たような状況は続いている。また、定期健診の重要性が認知されておらず、自覚症状が現れてから受診するが多く、受診時には既に重症化しており、治療困難なケースが多い。手術に際し、手術時期を早める等の目的で、医師等の関係者へ規定外の謝礼を贈ることが常態化している。

イ. プロジェクト発足の経緯

本コンソーシアムの代表団体のグループ内医療機関である相良病院は、大連医科大学付属病院からの要請により、2015年11月より、現地での講演活動や毎年30名程度の中国人医師の日本招聘及び相良病院の見学などの活動を実施してきた。

それらの活動のなかで、2019年4月に大連医科大学付属病院と通泰（うんたい）集団¹が、相良病院（乳腺領域について日本で唯一の特定領域がん診療連携拠点病院として厚生労働省に認定されている）を観察した際、相良病院の乳腺外科、婦人科、甲状腺外科の診療と人間ドックセンターの取組に感銘を受け、かつその質の高い医療提供体制を高く評価し、

¹ 本事業で計画している医療機関：相良通泰大連医院への投資者である不動産デベロッパーであり、ホテル経営も行う民間企業である。2011年1月に設立され、資本金は2億2千万人民元、大連市沙河口区人民政府と良好な関係にあり、主に大連市沙河口区内における不動産デベロッパー業務を手掛け、アジア最大で大連の代表的観光地、且つ高級レストラン等が集う星海広場近くに、星海假日酒店というホテルを経営している。

大連市にも相良病院と同様の医療機関を開設したいという要望を示してきた。このような経緯から、通泰（うんたい）集団と大連での本事業でパートナーとなり、日本式女性医療機関及び人間ドックセンター設立にむけたプロジェクト発足に至った。

（2）目的・効果

大連市は、地理的な要因から九州と密接な関係がある。大連市の多くの医師が九州の医療機関で開催される研修に参加しており、日本への信頼度が非常に高いのが特徴である。また、1,550社にも上る日系企業が大連市に進出しており日本との関係が強い地域である。しかし、大連には日本水準の乳腺外科、婦人科、甲状腺科の診療及び人間ドックを受けることができる医療機関がないため、日本式女性医療機関及び人間ドックセンターとして相良通泰大連医院を開設することにより、大連に進出する日系企業の従業員及び家族に安心感をもたらし、現地住民にも利益をもたらすことができると考えている。日本の優れた、かつ信頼できる医療、そして、サービスレベルが高く、患者に寄り添う医療を大連市で実現し、現地の人々の健康の維持を図っていきたいと考えている。具体的には、1日の診療数を制限することによる診察時間の十分な確保、患者に寄り添う医療の実現、早期発見・定期健診の普及・啓発活動の実施、規定外の謝礼の受け取り厳禁などを取り入れる。そして、現地医療機関とも積極的に交流を図り、現地医療レベルの向上に寄与したいと考えている。

日本は今後、人口減少が見込まれており、病院経営環境が厳しくなることが予想される。アジアでの日本の医療の展開として、まずは隣国である中国の大連で、女性医療機関及び人間ドックセンターのビジネスモデルの構築を実現し、将来的に中国のその他都市や、アジアの国々への展開を進めていきたい。

1-2. 事業の詳細・スキーム

本事業の詳細・スキームは以下のとおりである。

（1）本年度実施する事業の詳細

ア. 現地調査

（ア）規制・制度調査

開院にあたり、大連市の行政担当者と面会し、中国及び大連市の規制・制度を調査・確認する。

（イ）提供する医療サービスに対するニーズ調査

経営戦略を策定するために、大連市の行政が求めている医療サービスや診療科等について

てヒアリングを行うとともに、大連市の日系企業を訪問し、開院を予定している医療機関に対してどのようなニーズがあるのかのヒアリングを行う。日系企業については、社員とその家族をビジネスのターゲットとしており、主に人間ドックに関するニーズの聞き取りを行う予定。将来的には健診などの契約につなげたいと考えている。

イ. 日本式女性医療機関及び人間ドックセンターの設立準備

(ア) 経営戦略及び各診療科の開設スケジュール策定

現地調査の結果をもって、2020年10月開院時の診療体制を決定し、経営戦略を策定し、開院後5年間の予算を作成する。乳腺外科、甲状腺科、婦人科、緩和ケア内科、人間ドックセンターそれぞれの開始時期について決定する。

(イ) 院内設計及び内装イメージの決定の支援

日本式治療・健診等のノウハウが詰まった女性向けの医療機関及び人間ドックセンターを構築するため、大成建設の協力のもと、開院予定地を視察の上、通泰集団に対して院内設計及び内装に関する助言を行う。

(ウ) 医療機器の購入支援

日本式治療・健診等のノウハウが詰まった女性向けの医療機関及び人間ドックセンターを構築するため、通泰集団に対して治療や健診に必要とされる医療機器購入の助言を行う。

ウ. 人材育成

(ア) 日本への招聘研修

提供する医療サービスの向上のため、当該病院の医療提供において、キーパーソンとなりうる現地医師や技師、看護師を日本に招聘し、相良病院の業務マニュアルに則った診療方法の指導や実際の診療の見学研修を実施する。

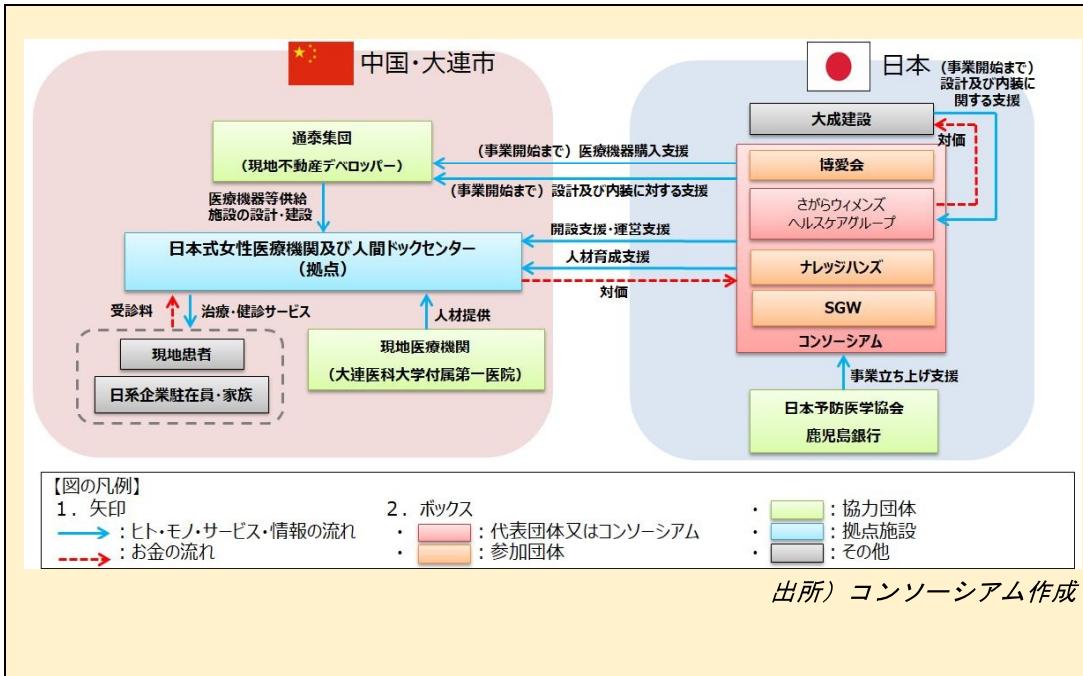
(イ) 現地での診療及び教育活動(現地派遣研修)

提供する医療サービスの向上のため、現地に相良病院の教育担当スタッフを派遣し、新規開院する病院の医師や技師、看護師等の全スタッフ(20名程度)を対象とした研修を実施する。研修内容としては、相良病院の診療及び業務マニュアルに則った診療方法の指導、模擬患者によるシミュレーションの実施、研修期間5日間程度を2回実施予定。

(2)スキーム

事業全体のスキームを図表1に示す。

図表1 事業スキーム図



1-3. 体制・スケジュール

(1) 体制

ア. 実施体制

一般社団法人さがらウィメンズヘルスケアグループは、以下の業務を自ら実施すると同時に、組成するコンソーシアムの参加団体及び協力団体（外注先含む）に対して以下の業務を委託又は外注し、本事業全体を取りまとめた。なお、状況に応じて相互に協力し全体として本事業を進めた。

イ. 役割分担

一般社団法人さがらウィメンズヘルスケアグループが組成するコンソーシアムの役割分担は以下のとおりである。

図表2 役割分担表

関係事業者		経営技術等、事業全体の監督・管理	事業立ち上げに関するサポート	日中間の橋渡し的役割として、課題解決等の全般サポート	現地調査	スケジュール策定	図面及び内装イメージの決定の支援	医療機器の購入支援	人材育成	報告書作成
コンソーシアム	さがらウィメンズヘルスケアグループ	◎	○	○	◎	○	○	◎		◎
	ナレッジハンズ	委託		◎	○	○	○	○	○	○
	SGW	委託		○	◎	○				○
	社会医療法人博愛会	委託			○				◎	
大成建設株式会社	外注先						◎			
日本予防医学協会	協力団体		○		○					
鹿児島銀行	協力団体		○							
通泰集團	協力団体		○					○		
大連市中日経済合作交流協会	協力団体		○	○						
鹿児島大連経済促進委員会	協力団体		○	○						
大連医科大学付属第一医院	協力団体		○							

〔凡例〕 ◎：主担当、○：担当

出所) コンソーシアム作成

(2)スケジュール

本事業のスケジュールを図表3に示す。

図表3 スケジュール表

実施項目	2019年			2020年	
	10月	11月	12月	1月	2月
現地調査	計画	実施	実施	実施	評価
経営戦略および各診療科の開設スケジュール策	計画	実施	実施	実施	

定				評価	
院内設計及び内装イメージの決定の支援			計画 実施	実施	評価
医療機器の購入支援			計画	実施	評価
人材育成（招聘研修及び現地派遣研修）				計画 実施	評価
報告書作成				作成	作成

出所) コンソーシアム作成

第2章 事業実施内容と成果

2-1. 現地調査

(1)規制・制度

ア. 中国の公的保険

公的医療保険制度に関して、本人の戸籍（都市戸籍／農村戸籍）や、就業の有無により、大きく2つに分類される。都市で働く会社員などは「都市職工基本医療保険」に加入（加入義務有）、都市の非就労者や農村住民は「都市・農村住民基本医療保険」に加入（任意）する。

「都市職工基本医療保険」の場合、外来は年間1,800人民元（1人民元=15.5円※2020年2月5日現在）まで全額自己負担となり、年間1,801人民元以上～2万人民元までは10%自己負担、給付限度額年間2万人民元を超えた部分は全額自己負担となる。入院は大連大学附属第一医院と第二医院では年間1,200人民元、三級医院は年間850人民元、二級医院は年間500人民元まで全額自己負担となり、それぞれ給付限度額年間30万人民元までは、大連大学附属第一医院、第二医院及び三級医院では15%自己負担、二級医院では12%自己負担となる。給付限度額年間30万人民元を超えた部分は全額自己負担となる。保険料は労使折半ではなく、企業の負担が重い設定となっており、雇用主が前月の従業員賃金総額の8%、従業員が本人の前月賃金の2%を負担する。

イ. 合弁会社

大連において、外資独資での医療機関設立は認められておらず、必ず中外合弁の形で進出する必要があり、合弁期間は20年を超えてはいけない。

中外合弁での進出は、中国における外資企業の最も一般的な進出スタイルで、全進出外資企業のうち約半数がこの形態となる。合弁企業のメリット・デメリットは、中国側の人脈・ノウハウを活用しやすい反面、意思決定において中国側出資者と軋轢が生じる可能性がある事である。合弁企業における投資総額は2千万人民元以上が条件で、外資の出資比率は25%以上（25%未満でも設立可能であるが、外資系企業として認められず優遇政策の対象にならない）、70%未満。なお、合弁会社は契約年限（経営年限）が定められており、契約年限が20年契約であればその期間の利益については中外双方の出資比率に応じて分配することになる。また合弁当事者間の合意があれば契約年限の延長も可能である。企業を解散（撤退）する場合には取締役会の「全会一致」が必要とされるため特に中国側の合意を得るのが難しいことが予想される。

ウ. 医療機関の等級

医療機関には機能についての基準があり、3等級に分別される。相良通泰大連医院が開設を予定している二級病院の基準は、100床以上、腫瘍外科、腫瘍内科、女性腫瘍科、放射線治療科、総合診療、中国医学腫瘍科の設置が必要である。

各等級の病床数基準は、三級=500床以上、二級=100～499床、一級=20～99床である。三級医療機関は、公立がほとんどで、医療水準が高く、医療設備も先進国と遜色ないレベルにあるが、二級以下医療機関は、総じて医療レベルが低いため、三級医療機関に高い医療レベルを望む患者が集中する。しかしながら、中国中央政府が民間医療機関の設立を推奨しており、今後、二級以下の専門病院が普及し、医療レベルが向上し、患者も分散していくものと思われる。

図表4　中国の病院の等級

等級	役割	病床数	診療科
三級 病院	複数の地区に専門性の高い医療サービスを提供し、高等教育、技術的任務を有する病院	500 床以上	臨床診療科(急診室、内科、外科、産婦人科、予防保健科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、口腔科、皮膚科、伝染科、中医科、リハビリテーション科) 医技診療科(薬局、化驗室、X線室、消毒室、薬剤科、検驗科、放射科、理療科、手術室、病理室、血庫、理療室、病案室、核医学科、輸血科)
二級 病院	複数のコミュニティに総合医療衛生サービスを提供し、一定の教育的、技術的任務を有する病院	100 ～ 499 床	臨床診療科(急診室、内科、外科、産婦人科、予防保健科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、口腔科、皮膚科、伝染科) 医技診療科(薬局、化驗室、X線室、消毒室、薬剤科、検驗科、放射科、理療科、手術室、病理室、血庫、理療室、病案室)

一級 病院	一定の人口規模を有するコミュニティに 予防、医療、保健、リハビリテーション サービスを提供する基礎病院、衛生院	20～ 99 床	臨床診療科(急診室、内科、外科、 産婦人科、予防保健科) 医技診療科(薬局、化驗室、X 線室、 消毒室)
----------	---	-------------	---

出所) 各種資料を基にコンソーシアム作成

工. 医療スタッフの資格

外国人医師、技師への医療行為を行うためのライセンス取得は比較的容易であるが、看護師の場合、中国語の習得が必須条件となっており、ライセンス取得が困難である。

医師、技師に関して、「外国医師訪中短期医療行為管理暫定弁法」という法律があり、外国で医師・技師免許を取得している医師・技師が、中国の医療機関で 1 年以内の臨床診断、治療業務を行う場合、当局への登録手続きを行い、「外国医師短期医療行為許可証」を取得する必要がある。登録の際、学位証書、ライセンス、健康証明等を提出する必要があり、就労期間は 1 年となるが、毎年の更新が可能である。

オ. その他留意すべきポイント

日本の医療機関が、中国の企業と提携を行い、中国で医療を提供する際の規制や留意するポイントについて、最も重要なのが立地と思われる。本事業では、富裕層かそれに準じている層の女性をターゲットとしているため、立地に関しては、都市の中でも富裕層～中間所得者層が集まるエリアの近くであることが重要となる。また、放射線治療設備の設置に関する規制として、付近に居住エリアがないことの条件があり、立地の選定・確保において、留意するポイントとなる。

次に留意するポイントとしてビザの発給が挙げられる。最近、外国人に対するビザ発給のハードルが高まりつつあり、また、主に製造業の中国外への移転が増え、外国人駐在員の数は減少傾向にある。中国国内での医療サービスを提供する事業の拡大を計画するのであれば、外国人患者だけをターゲットとするのではなく、中国人患者を主要顧客として見据えた戦略を検討すべきと思われる。

このほか、深刻な問題として、現地特有の規定外の謝礼等の「慣習」がある。顧客である中国人患者も、現地特有の「慣習」を熟知しており、医療機関や医師に対する見方や信頼感は外国のそれとは異なる部分もある。こうした環境のなか、現地特有の「慣習」にどう向き合い、医師をはじめとするスタッフをどう管理していくのか、慎重に判断する必要がある。

(2)医療サービスに対するニーズ調査

ア. 乳腺外科、甲状腺科、婦人科、緩和ケア科

大連市の医療状況について、通泰集団による調査では、乳癌の新規患者数は約 3,000 人／年、手術数は約 6,000 件／年である。甲状腺結節の新規患者数は約 5,000 人／年、甲狀腺癌の新規患者数は約 600 人／年、手術数は約 2,000 件／年である。子宮筋腫の新規患者数は約 6,000 人／年、子宮頸癌の新規患者数は約 700 人／年、手術数は約 2,000 件／年である。緩和ケアについては、保険が付かない為普及していない状況である。したがって、乳腺外科、甲状腺科、婦人科及び緩和ケア科を中心とした医療提供へのニーズは十分にあると判断した。

既存医療機関（大連医科大学付属第一、第二医院）の医療サービスに対して、例えば、長い待ち時間、誤診やホスピタリティ等への不満の声があり、相良式の患者に寄り添う医療の提供を行えば、現地のニーズにマッチすると期待される。

イ. 人間ドック

本事業で開設する人間ドックセンターは、大連に支店や工場などを設置している日本企業を顧客ターゲットとして考えており、そのニーズ調査方法として直接要望等をヒアリングする方法を採用した。現在、コースや料金について詳細を打ち合わせ中である。2020 年 1月には日本にある親企業との話し合いを持ち、翌2月に現地の企業を訪問予定であったが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナウイルス」という）の影響により、訪問がキャンセルとなった。状況が改善次第、訪問・調査をする予定である。

一方で中国人への人間ドックサービスの提供については、競合となりうる人間ドック実施機関として、大連大学付属中山医院（公立三級医院）、慈銘健康（民間の人間ドックセンター）、維特奥健康（民間の人間ドックセンター）、美年大健康（民間の人間ドックセンター）等があり、参考までに大連大学付属中山医院の人間ドック内容・価格を記載する。

- 「豪華コース」8,130 人民元
- ▽診察（内科診察、身体計測、耳鼻咽喉・眼科健診）
- ▽尿便潜血・血液検査（肝機能・脂質・糖代謝・腎機能・感染症、腫瘍マーカー、便血検査）
- ▽心電図
- ▽CT 検査（肺、肝臓、胆嚢、脾臓、膵臓、腎臓、前立腺、頭部）
- ▽カラーエコー（心臓、甲状腺、乳腺、頸動脈）
- ▽炭素同位体呼気検査
- ▽血管（頸動脈）エコー
- ▽MRI（脳、頸椎、腰椎）
- ▽骨密度

マンモグラフィとエコー検査を併用することが、乳がん早期発見に重要であるという認識が現地では乏しく、普及していない。また、胃カメラは検査する医師の経験が乏しく、苦痛を伴う検査という認識が患者の間で広まっており、患者が敬遠し普及していない。これらのがんの早期発見に有効な検査項目を相良式の人間ドックとしてPRし、現地に普及させていきたいと考える。

(3)開設予定地観察

建物の所在地は星海広場に隣接しており、大連市でも立地が良い場所である。星海広場は、アジア圏最大の面積を持つ広大な公園であり、南北長さ約1km、東西長さ約600m、外周約2.5km、約50万m²の面積があり、周囲には高層マンションや飲食店、ホテルが立ち並んでいる。大連の中でも地価の高い地域で、富裕層が多く居住している。観光地としても有名で、ブランディングには最適の立地と考えられる。

図表5 星海広場の写真



出所) 通泰集団撮影・提供

図表5の黄色枠に示す場所にある建物が開設予定地である。前方に川が流れ、後方に山があり、「前水後山」という中国風水では最高の立地条件である。

2-2. 日本式女性医療機関及び人間ドックセンターの設立準備

(1) 経営戦略

ア. 開院後の構想

日本の優れた、かつ信頼できる医療、そしてサービスレベルが高く、患者に寄り添う女性向け医療と人間ドックを中心とした医療機関を実現する。開院後1~3年を初期、3~5年を成長期、5年後以降を成熟期とし、初期・成長期においては、大連医科大学附属病院に協力を仰ぎ、女性医療以外の診療も行う。これは、放射線治療設備や手術室の利用率向上させることが目的である。現状、日本の相良病院においても、前立腺癌の放射線治療に対応するなど女性診療以外の診療も実施している。外来放射線治療については成熟期以降も女性医療以外も受け入れ可としたい。

医療機関として認可を受けるために必要な条件と条件を満たす開院後の構想を図表6に示した。

図表6 認可を受けるための条件と開院後の構想

診療目的	外来	人間ドック	入院
認可に必要な条件と条件を満たす開院後構想	<ul style="list-style-type: none">・80名／日対応・腫瘍外科・腫瘍内科・女性腫瘍科・放射線治療科・総合診療・中国医学腫瘍科	<ul style="list-style-type: none">・50名／日対応・内科・外科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・口腔科	<ul style="list-style-type: none">・100床以上・2床病室がメイン・個室・腫瘍外科（乳腺・甲状腺外科）：40床・腫瘍内科（放射線、化学療法）：40床・その他：20床

出所) コンソーシアム作成

イ. 相良病院式の運営管理

相良病院で採用している広報戦略、運営分析、コスト管理、人事評価制度の運営管理办法を相良通泰大連医院でも採用する。

(ア)広報戦略

相良病院の特色ある取組として、下記の3点を挙げることができる。

図表7 相良病院の特色

① 患者の生活を支えるケア
・アドバンスケアプランニング
・患者の家族や子供へのケア
・患者の就労支援
② 先進的かつ根拠に基づいた女性がん医療
・乳がん領域における特定領域がん診療連携拠点病院
・へき地医療拠点病院
・がんゲノム医療連携病院
・治験・臨床研究への積極的な取組
③ 医業・企業とのパートナーシップ
・医療機器メーカーであるシーメンスヘルスケア、バリアンメディカルシステムズとのパートナーシップ契約
・医科歯科連携

出所) 相良病院作成

これらの取組を訴求するポイントとして、勉強会・講演会・プレスリリース・記者会見・イベント活動・啓発活動を積極的に行うことで、病院のブランドを向上させる。

(イ)運営分析

各診療科の責任者と目標値を設定し、各診療科の週次の指標を病院の全職種が出席する会議で確認し、問題点がある場合は問題を解決するためのミーティングを行う。

図表8 運営指標一覧

延べ入院患者数(動態)	平均在院日数
延べ入院患者数(静態)	延べ外来患者数
新入棟患者数	外来新患患者数
新退棟患者数	外来診療単価
診療稼働額入院(差額含)	診療稼働額外来
診療稼働額入院(差額室料)	全身麻酔件数（術式ごと）
診療稼働額入院(差額抜)	局所麻酔件数（術式ごと）

入院診療単価(差額含)	医療機器ごと件数
入院診療単価(差額抜)	

出所) 相良病院作成

(ウ)コスト管理

医療機関の経営の安定性を確保するために、相良病院で採用している下記のコスト管理を適用する。

a. 予算承認

- ・年度末に翌年度の購入予定品を予算案として提出。
- ・予算承認委員会にて必要性・費用対効果等を検討。
- ・上記検討結果にて翌年度の予算を決定する。

b. 稟議管理

- ・10万円以上の経費を必要とする場合は稟議書を作成。
- ・必要な部署を稟議し、理事長が決裁を行う。
- ・原則として2社以上の相見積をとり必要性・費用対効果等により比較検討を行う。
- ・2社以上の見積がない場合はその理由等を記載する。

(エ)人事評価制度

部署の管理者は目標管理、管理者以外はグレード評価を行う。

各職のグレードごとに仕事の質とレベルを設定する。

また、病院全体の共通認識を図ることを狙いとし、全職種・全職員共通の行動評価基準を作成し評価する。

図表9 グレードについて

区分	グレード（格付）	役割
一般スタッフ職	グレード1	初任クラス
	グレード2	担当者クラス
	グレード3	中堅クラス
	グレード4	副主任クラス

	グレード 5	主任
--	--------	----

出所) 相良病院作成

図表 10 目標管理シート

今年度、法人に評価してもらいたい（注目してもらいたい、アピールしたい）部署の目標を設定してください。														
項目	実施すること期待する結果	成果尺度	目標値	時期	自己評価					上司評価				
					S	A	B	C	D	S	A	B	C	D
定量目標 (数値目標)					10	8	6	4	2	10	8	6	4	2
定性目標 (部下育成研究・学会など成長のための目標)					10	8	6	4	2	10	8	6	4	2
合計点														

出所) 相良病院作成

図表 11 行動評価基準

1. 法人理念や基本方針を理解し、自分の日常行動において常に意識し実践している
2. 常に患者に納得、満足して頂けるよう考えて仕事に取り組んでいる。
3. 常に「誰かのために」を考え率先して自らが動く
4. 高い目標に向かって努力を惜しまない（一旦引き受けたことは最後までやり遂げる）
5. 広い視野を持ち新しい事へチャレンジする（良いと思ったことは積極的に提案している）
6. 一人ひとりの力が組織の力となり成長する（目的意識を持って自己の役割を達成する）
7. 謙虚で素直な心をもつ（ありがとうという感謝の気持ち、すみませんという謙虚な気持ち）
8. 相手をおもいやり、笑顔で接する
9. 学び続ける努力を忘れない（新しい仕事に挑戦するために、資格取得や自己啓発などに積極的に取り組んでいる）
10. 医療人としての責任と自覚を持つ（お辞儀、挨拶、言葉遣い、気配りなど礼儀正しい接遇ができる）

出所) 相良病院作成

ウ. 相良通泰大連医院の医療チーム構成

相良通泰大連医院に、相良病院より医療スタッフを派遣する。派遣する職種は、医師、看護師、放射線技師の予定である。

(ア)医師

医師の人工費は中国で勤務する場合、約 180 万元（3,000 万円）/年を想定している。日本人医師は人工費がやや高いので、日本から派遣する日本人医師は最小限とする。実際には、相良病院の前院長である中国人医師の雷先生を中心とし、その他 2 名の医師でサポートする体制とする。

(イ)診療放射線技師

開業時は、相良病院より、相良通泰大連医院に常駐する診療放射線技師を 1 名派遣する。現地の他の病院との違いを強調するため、乳癌診断は診療放射線技師が担当し、医師より患者に最終的に説明するものとする。放射線技師の診断については、最終的な診断を医師が行えば、法的にも問題ない。中国で勤務する場合、技師の人工費は約 60 万元（1,000 万円）/年を想定している。診療放射線技師は経験のある女性技師を派遣し、将来は常駐せず、中国人技師で運営できるように、中国技師のトレーニングを行う予定である。

(ウ)看護師

開業時は、診療放射線技師同様、相良通泰大連医院に常駐する看護師を 1 名派遣する。しかし、前述のように看護師の場合、中国ライセンス取得のためには中国語の習得が必須条件となっており、ライセンス取得は困難である。したがって派遣する看護師の業務位置づけは看護管理とする。派遣する看護師は、相良病院の前看護部長を予定している。

エ. 開院後のスケジュール

開院時から 3 年間は、人間ドックセンター、乳がん治療、緩和ケアを重点的な柱として運営する。開院から 3 年後に婦人科と甲状腺科の治療にも力を入れる予定である。

(2)院内設計及び内装イメージの決定の支援

ア. コンセプト

相良病院を設計した大成建設にアドバイザーとして加わってもらい、相良通泰大連医院に相良病院と同様の環境を整備する。院内各所のアメニティースペースを充実させ、わかりやすい平面図計画と掲示で導線を集約化し、患者と職員が満足できる建物とする。患者のためのサポートセンターや癒しのカドルハウスを整備して患者相談・支援に力を入れる。

カドルハウスとは、がんを経験された方とそのご家族やご友人など、がんに影響を受け

るすべての方が気軽に訪れることができる施設である。カドル（cuddle）には「優しく抱きしめる・寄り添う」「心と体を落ち着かせる」という意味がある。医療従事者やがんを経験したサポートーが常駐し、下記のサポートを無料提供する。

- ・悩み相談
- ・食事と栄養の相談
- ・乳がんメディカルセラピー 治しのヨガ
- ・化学療法前後の頭皮・頭髪ケアのアドバイス
- ・お子さんを持つがん患者さんに、子供への伝え方・接し方の相談
- ・治療中のスキンケアと元気に見えるメイクの講習会

イ. 建築予定地

大連政府が所有する既存の建物を改修して使用する。大規模な改修工事が必要となるが、星海広場に医療機関を開設することは、日本式病院をプランディングしていく上で重要なため、費用が高額になることを了承して進めることになった。

図表 12 建築予定地（建物正面入口）



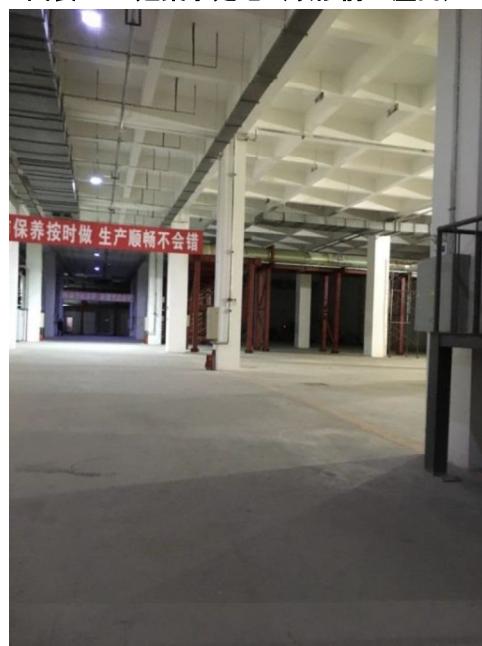
出所) コンソーシアムにて撮影

図表 13 建築予定地（屋上からの風景）



出所) コンソーシアムにて撮影

図表 14 建築予定地（改修前の屋内）



出所) コンソーシアムにて撮影

ウ. レイアウト

相良病院と同様の環境の実現と、既存の建物を活用することによる制約条件及び現地のスタッフの要望を取り入れたレイアウトとするために下記のような検討を実施し、最終レイアウト案を作成した。

(ア)ゾーニング

土地面積：約 9000 m²、建物面積 11600 m²

図表15 ゾーニング

フロア	面積	ゾーニング
地下 1 階	約 900 m ²	放射線検査科、放射線治療科、超音波室（人間ドック用）、厨房、食堂、更衣室、浴場、備品倉庫など 必要があれば、1350 m ² まで利用可。可能であれば、2層に分けたい。 (地下 1F、2F)
1 階	約 5000 m ²	外来機能（総合案内、診察室、検査室、受付会計所、薬局、漢方薬局、診療録室、保険請求業務室など） 人間ドック機能（総合案内、人間ドック用診療室、検査室など） 超音波室、心電図室、胃カメラ室、肺機能検査室、病理科、臨床検査室、血液保管室、手術室など
2 階	約 4500 m ²	入院病棟。一般病棟と緩和ケア病棟を同じフロアに配置し、スタッフを効率的に配置する。
3 階	約 1200 m ²	4500 m ² あり、露天となっているエリアを増築及び空中庭園として利用可。 入院棟、管理部門、ホール、遠隔診断室、カドルハウスなど

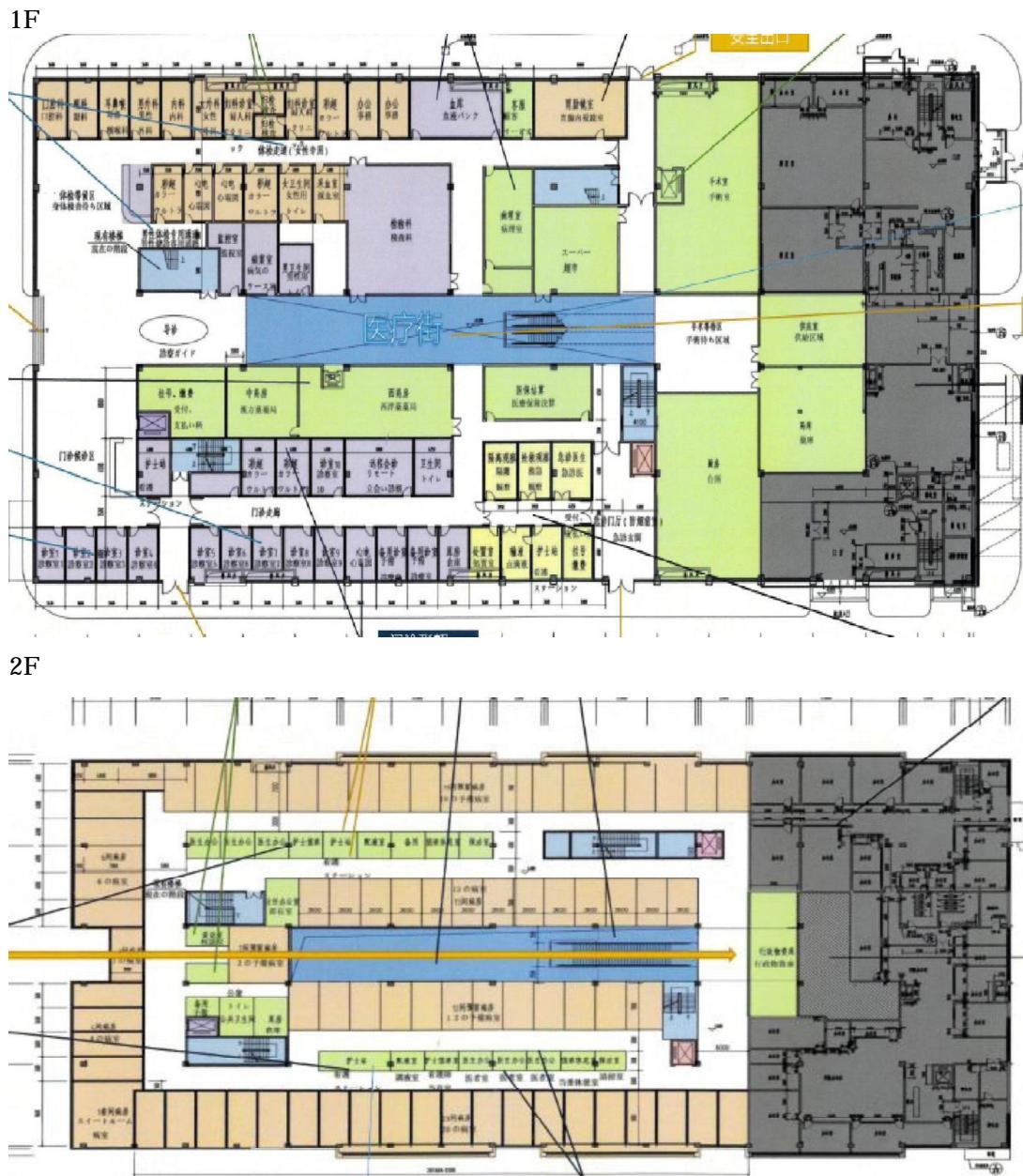
出所) コンソーシアム作成

(イ)レイアウト案に対する検討

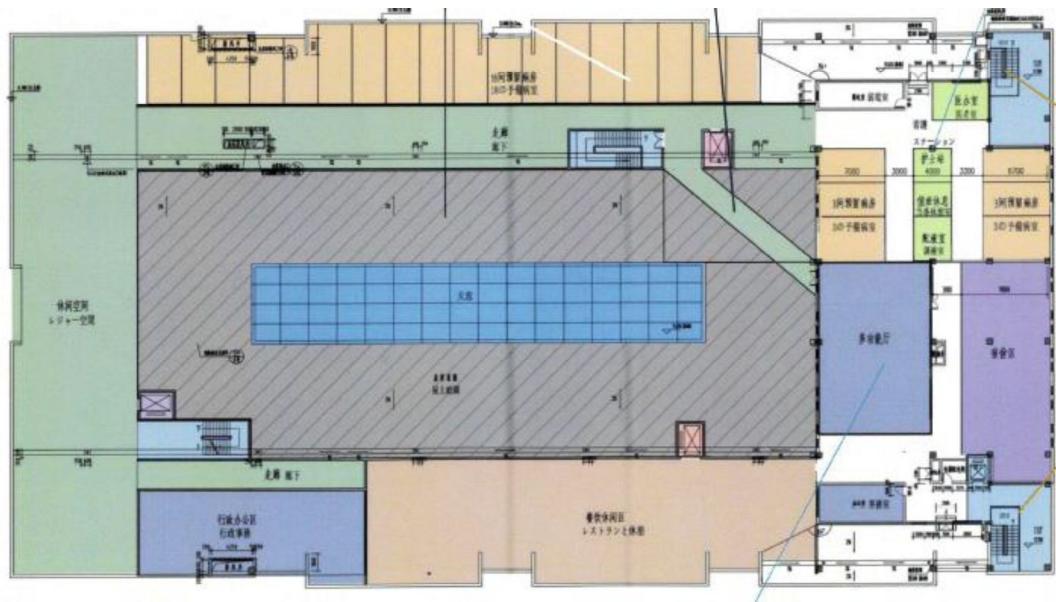
a. 当初平面図案とそれに対する助言

現地の設計事務所が作成した図表 16 平面図案（アドバイス前）に対し、相良病院のコンセプトを反映させるための助言を行った。

図表 16 平面図案（アドバイス前）



3F



出所) コンソーシアム作成

図表 17 コンセプト、アドバイス

フロア	相良病院を反映させたコンセプト、アドバイス
地下 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ① 階高が十分にあるので、2 フロアに分け、利用可能床面積を確保する。 ② 放射線関係諸室、重量の医療機器が入る諸室は、できる限り地下に配置する計画とする。
1 階	<ul style="list-style-type: none"> ① 待合、エントランスホールなどは十分な自然光を取り入れ、快適な空間となるように外部窓に面した部分に配置する。 ② 診察、健診、検査、総合受付などゾーンごとにアイランド形式（島状の配置）にし、利用者にわかりやすい平面計画とする。 ③ 並列する診察室の背後をスタッフ共用のスペースでつなぎ、スタッフの連携が取りやすい計画とする。 ④ トップライトからの自然光を取り込んだ2層吹き抜けの空間には、利用者の共用ゾーンとして、売店、カフェ、展示コーナーを設ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ① 3階に分散されていた病棟を全て2階に集約することで、階構成を明確にし、患者、スタッフにとって使いやすい病棟とする。 ② 緩和ケア病棟は、個室中心の病室とし、他の病棟とエリア、動線を分離し、独立性を高める。 ③ 病棟ごとに専用入口を設け、わかりやすい位置に受付用のスタッフステーションを配置する。 ④ 機械浴室、共用の浴室、シャワー室等を追加する。 ⑤ デイルームは眺望の良い場所に配置し、様々な用途に利用できるよう、十分な大きさを確保する。
3階	<ul style="list-style-type: none"> ① 東側にスタッフ専用施設である管理部門、西側に患者、一般の方が利用するリハビリテーション、化学療法室、大ホール等を分離して配置し、動線の交錯をなくし、明確な構成とする。 ② 癌患者を支援する施設である「カドルハウス」を眺望のよい位置に設ける。

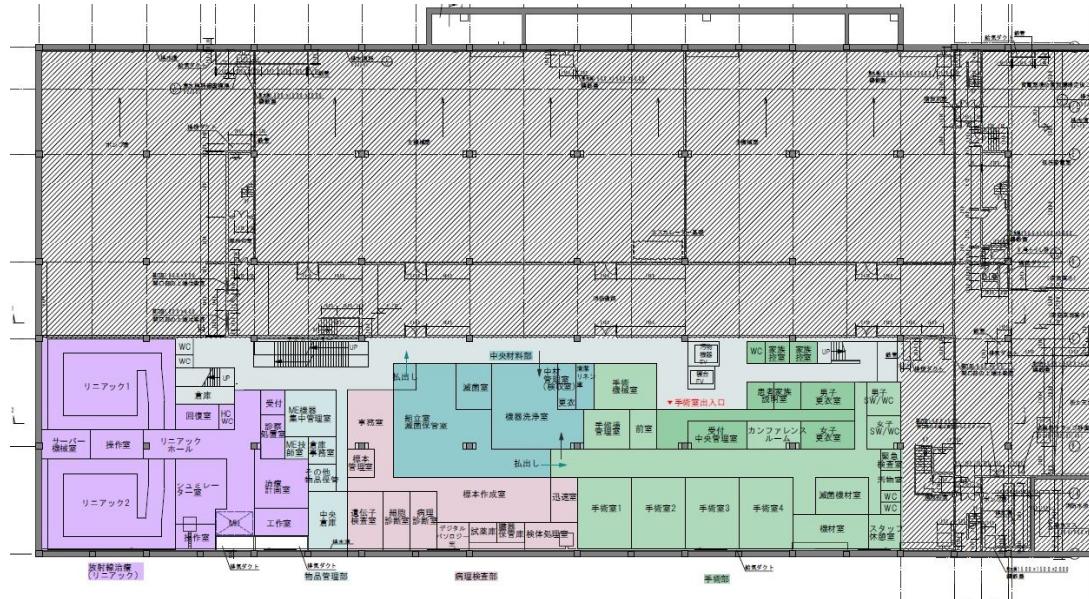
出所) コンソーシアム作成

b. 改善された平面図案とそれに対する助言

図表17のアドバイスを反映させた図表18平面図案（アドバイス後1月6日現在）を作成した。

図表 18 平面図案（アドバイス後 1 月 6 日現在）

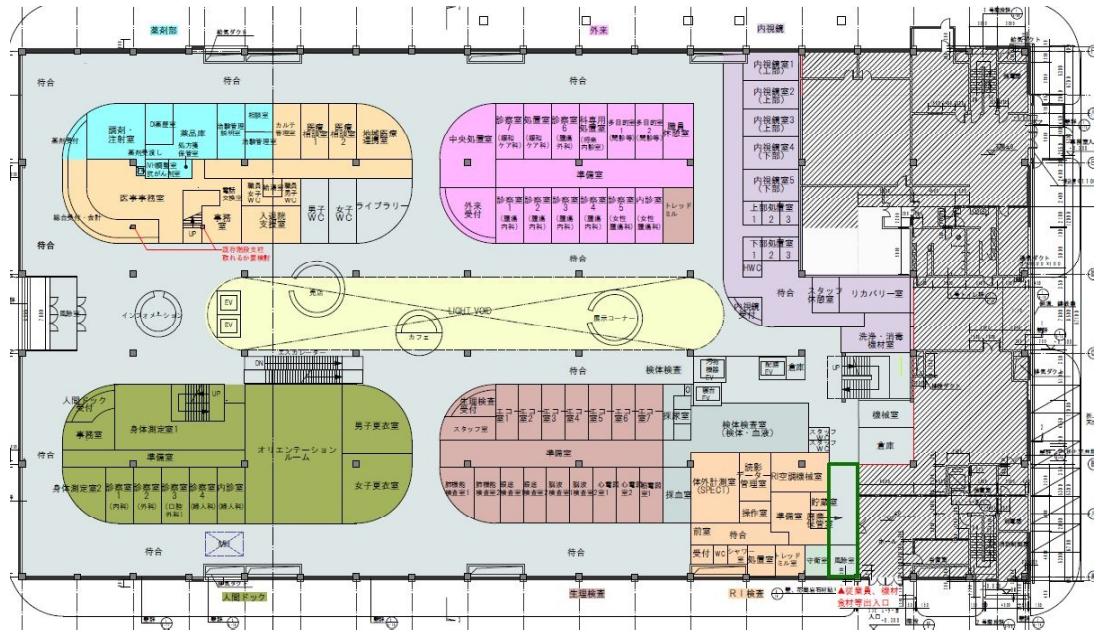
B2F



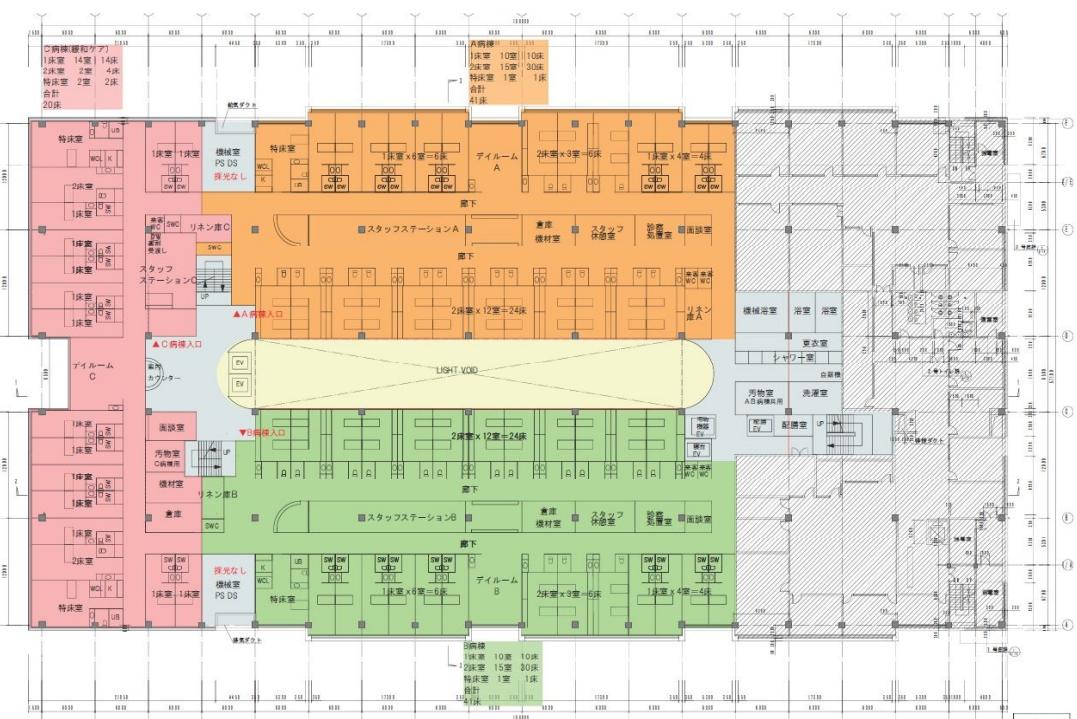
B1F



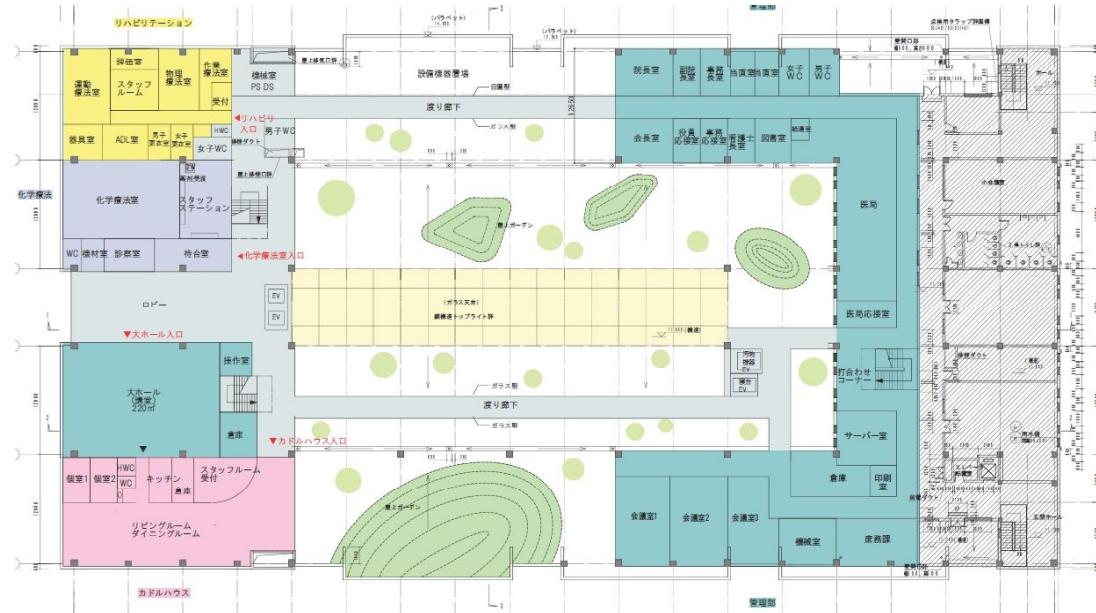
1F



2F



3F



出所) コンソーシアム作成

図表 18 平面図案（アドバイス後 1月 6日現在）を基に現地のスタッフと打ち合わせをしたところ、現地スタッフから下記の要望があがった。

図表 19 平面図について要望

エリア	中国側からの要望	相良側からのアドバイス
全体	①地下及び 1 階には手術室は設けられない。 (法的事項) ②X-T V 室は必要ない。 ③マンモ室は 2 室共に 1 階へ移動したい。 内 1 台は細胞組織などをとってその場で検査できるようにしたい。 (簡単なオペができる) ④X 線室、C T、骨密度室は一列に並べたい。 ⑤ニアックは 1 台でよい。 ⑥地下へのエスカレーターは無しとし、その代わりに寝台用エレベーター 1 台を	⑬の RI 検査部門が不要の場合、他の検査方法が必要となるが、その際はどういう検査方法となるか確認した。 現地スタッフの見解: 中国では放射性核種の管理は非常に厳格であるため、中国の病院のほとんどは RI 検査を行っていない。 大連医科大学付属病院でも政府関連部門からの許可が下りなかつた。一般的に、中国ではセンチネルリンパ節の生検は ICG 蛍光法または色素法を用

	<p>地下へおろす。そのエレベーターは地下 2 階から 3 階まで通す。</p> <p>⑦寝台エレベーターと配膳エレベーターは兼用することが可能である。</p> <p>⑧中央エレベーター（吹き抜けに面するエレベーター）は寝台用とする。</p> <p>⑨配膳エレベーターは地下 2 階から 3 階まで通したい。</p> <p>⑩病室ベット足元から壁までは 1100mm 以上法的に必要である。</p> <p>⑫R I 検査部門は不要。</p>	<p>いるため、特に部屋を確保する必要はない。</p>
手術室	<p>①手術エリア面積は 500～600 m² とい。</p> <p>②各室必要面積</p> <p>手術室 30 m² × 4 室 * 乳腺科 2 室 婦人科 1 室 無菌手術 1 室</p> <p>麻酔倉庫 5 m² × 1 室</p> <p>手洗い 1 箇所 (10 m²程度) 蛇口 4 つ * 汚物動線と重ならない位置とする</p> <p>麻酔科室 10 m² × 1 室</p> <p>看護士室 20 m² × 1 室 * 麻酔科室と看護士室を 1 室にまとめてよい</p> <p>WC 男女別 便器各 2 ヶ</p> <p>シャワー室 男女別 シャワー各 2 台</p> <p>* 更衣室とつなげる</p> <p>汚物室 10 m²</p> <p>更衣室 男女別 各 15 m²</p> <p>洗浄室 10 m² * 手術器具の洗浄を行う</p> <p>出入口 医者、患者、汚物の 3 箇所必要</p>	

	<p>消耗品倉庫 15 m²</p> <p>滅菌機材室と汚物室は完全に分ける。＊正反対の位置とするが、手術廊下で動線が重なるのはやむを得ない。</p> <p>患者説明室 1室 ＊手術室に近い位置、切除したものを見せる</p> <p>家族控室 2室</p> <p>カンファレンスルームは面積的に無理であれば無しでもよい。</p> <p>緊急検査室、スタッフWC 2室は無しでよい。</p> <p>スタッフ休憩室は無しでよい。</p>	
外来部門	<p>必要診察室については以下のとおり</p> <p>乳腺外科 1 乳腺内科 1 甲状腺科 1 腫瘍内科 1 放射線治療科 1 漢方腫瘍科 1 甲状腺外科 1 婦人科 1 内診科 1 総合内科 1 名医オフィス 3 (3室無理であれば最低 1室) 急診室 1 処置室 2 倉庫 1 注射室 1 予備室 3 合計 21 室</p>	
1階	<p>①健診の外来は 100 人/日であり、常に待っている患者は 50 名程度と考える。</p> <p>②待合エリアの奥行きをもう少し小さくしてスタッフの準備室を広げたい。</p> <p>⑤ 薬剤部について</p> <p>治験関係諸室は不要。調剤室の隣に小さい薬品庫を設け、メインの薬品庫は地下へ設ける。</p> <p>薬剤受付の位置は総合受付隣あるいは、原案の内視鏡受付あたりに設けるか検討する。</p> <p>医薬品情報室と相談室はまとめると大きさは 4 人利用で考える。</p>	<p>エコー室はマンモ室 1 に対して 2 室必要であり、マンモ室が 2 室あるので、合計 4 室のエコー室が必要。マンモ室の 1 室はマンモトーム(生検)室である。放射線技師の動線を考えると、なるべくエコー室とマンモ室をまとめたい。外来部門の対面にマンモ室とマンモ用エコー室を配置すれば、よい。</p>

	<p>薬剤用DW（ダムウェーター）は無しでよい。＊病棟と連結する必要ない</p> <p>⑥ 事務部門について 地域連携室は不要。カルテ管理室の大きさは現状でよいが、受付窓口が必要。 医療相談室は1室とする。</p> <p>⑦ 検体検査部門について 採血室、採尿室は並列させる。</p>	
2階	<p>各病棟に入院棟医局が必要であり、各病棟に6～8名が入れる大きさとする。 外来は各診察室に医師の机があり、また入院棟医局もあるので、3階にまとまった医局は不要である。</p> <p>病棟は2病棟とする。腫瘍内科、腫瘍外科、重症病棟で考えており、各病床数は検討して伝える。緩和ケア病棟は現段階で無しとする。</p> <p>化学療法を2階に設けたい。化学療法のベッド数は病床に算入できる。</p>	「重症病棟」は、「緩和ケア病棟」という名称がよい。
3階	<p>①手術部門、中央材料部門、病理部門を設置する。</p> <p>②医局、会長室は不要。サーバー室や倉庫等は地下へ移動させる。</p> <p>③手術動線において寝台エレベーターと汚物エレベーターを分けること。</p>	
B1階	<p>①内視鏡部門を設置する。上部内視鏡室2下部内視鏡室1とする。</p>	

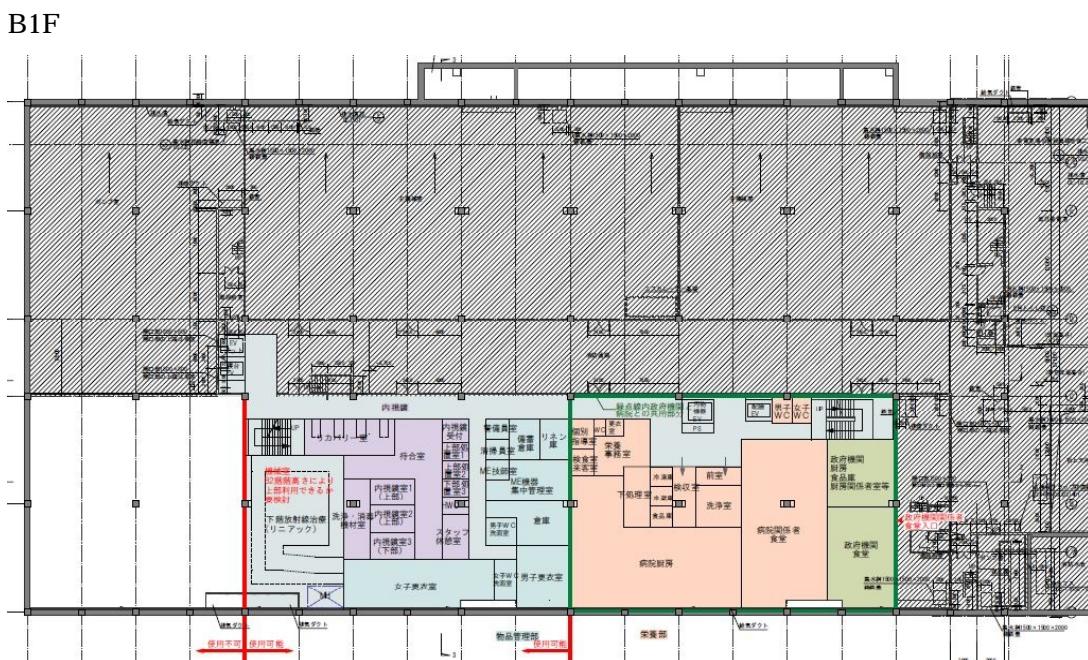
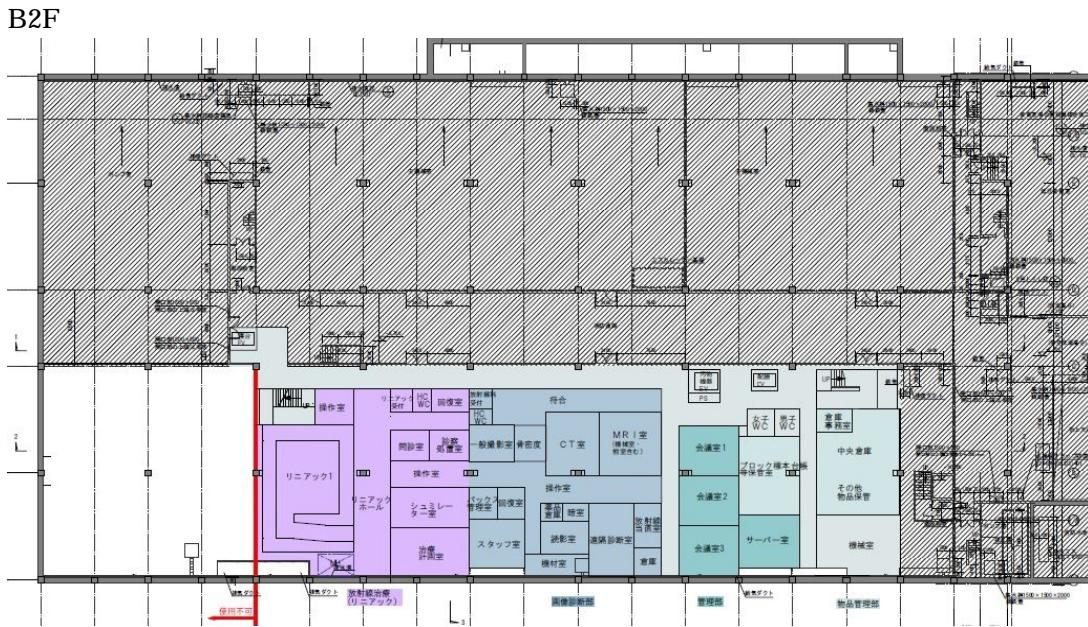
	②内視鏡部門、更衣室を優先して地下1階に設け、その他会議室、倉庫、カルテ庫、庶務課、サーバー室等は地下1階に入らない場合は地下2階に設けることも可能。	
B2階	①画像診断部に遠隔診断室(5名用の大きさ)1室が必要 ②1階への階段が必要	1階から3階までの階段のある場所はB2階まで通らないため、1階で載せ替えの可能性がある。

出所) コンソーシアム作成

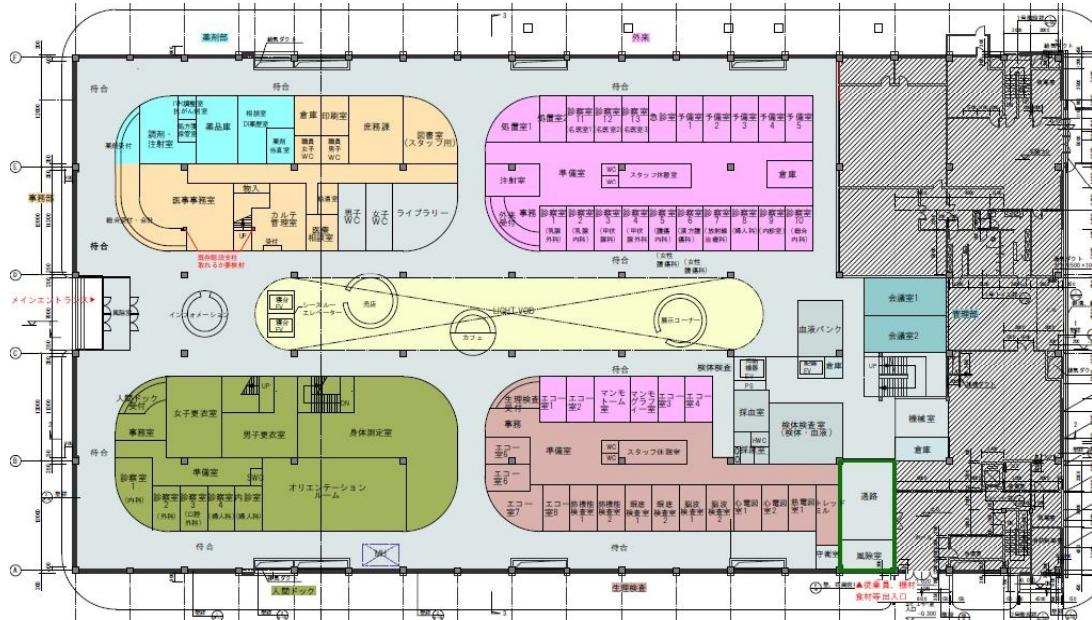
c. 現時点での平面図案

図表19の現地スタッフからの要望を基に、図表20に示す平面図案を作成した。これで既存建物の制約と現地スタッフからの要望を取り入れ、相良病院の環境コンセプトを盛り込んだレイアウトが完成した。なお、中国の法律上の問題、耐荷重について、中国の設計事務所が確認する。

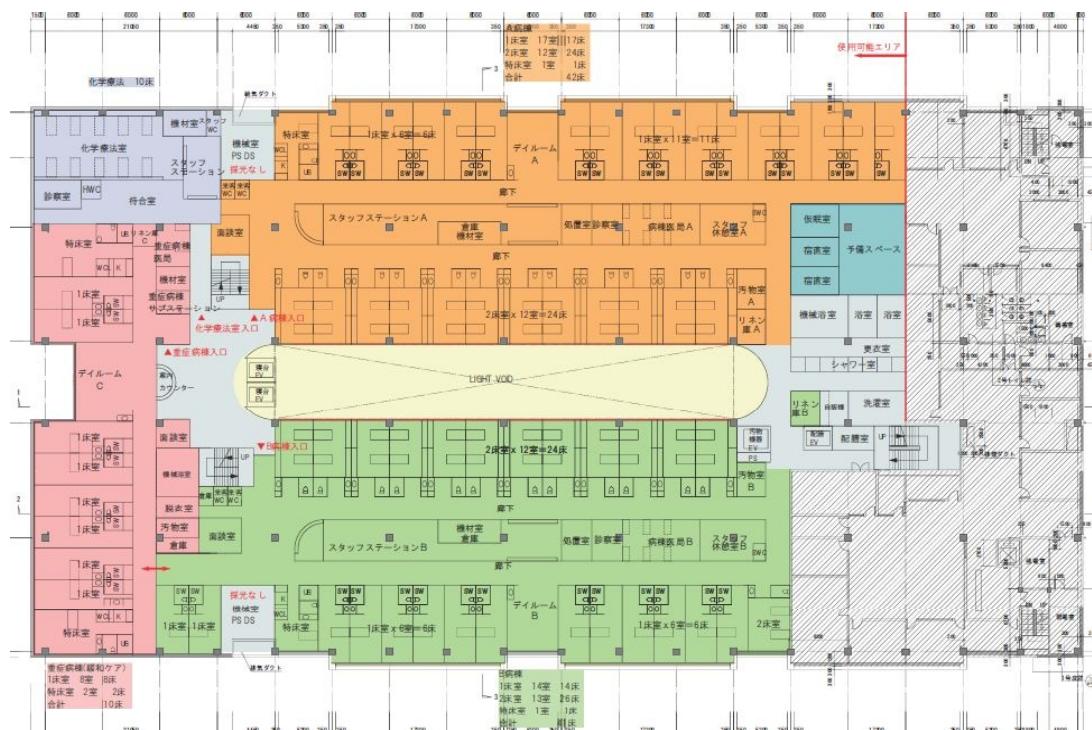
図表 20 平面図案（2月13日時点）



1F



2F



3F



出所) コンソーシアム作成

(3) 医療機器、医療資材、設備等の購入支援

相良病院で採用されている医療機器、医療資材、設備等を参考に、中国におけるそれらの市場調査を行った。大連医科大学付属病院等の中国医師の意見も参考にしながら選定した。

ア. 医療機器の選定

(ア)スケジュール

図表 21 医療機器選定スケジュール

日程	内容
2019年11月18日 2019年11月23日	相良病院で採用している医療機器の名称、型番、数量の確認
2019年11月25日 2019年12月21日	相良病院の大型医療機器に関する中国における市場調査

2019年11月25日 2019年12月06日	付属第一医院、付属第二医院、中山医院、中心医院等の大規模医 院の画像診断科、超音波科、臨床検査科、病理科及び放射線科等 の専門家医師に、採用医療設備の名称、型番、数量を確認。同 時に医療設備導入に関する申請手続きに関する情報を収集。女性腫 瘍病院に対するアドバイスも頂く。
2019年12月23日 2019年12月28日	相良通泰大連医院の大型医療設備について検討し、設備比較リス トを作成
2019年12月29日 2019年12月31日	相良通泰大連医院の大型医療設備に関する検討会開催
2020年01月02日 2020年01月04日	大型医療設備に関する予算の確定。他医療機関検査センターとの 提携の確認
2020年01月06日 2020年03月31日	メーカとの売買契約締結

出所) コンソーシアム作成

(イ)導入予定機器

導入予定機器については、さがら病院がパートナーシップ契約を締結しているシーメンスヘルスケア株式会社と株式会社バリアンメディカルシステムズの製品を選定した。

a. X線CT装置について

SOMATOM go Now (シーメンスヘルスケア株式会社)



CTは、主に手術前に行う肺などへの転移の有無について調べる検査や手術後の転移部位の検査を行う。SOMATOM go Nowは、タブレット端末を用いた撮影準備から画像確認まで一連の操作が可能であり、被検者に寄り添った安心感のある検査が実施できる。

b. X線乳房撮影装置(生検用)について

Mammomat Revelation (シーメンスヘルスケア株式会社)



乳がん検診や要精密検査時だけでなく、乳癌術後のフォローアップまで、乳腺診療において欠かすことのできない装置であり、今回乳がん検診と診療、針生検時のターゲッティングにこの装置を使用する予定である。Insight BDは乳腺密度を装置が自動的に定量評価・分類し、容易に客観的な判断ができるため、乳腺密度のレベルに応じた検査の提案が可能である。

c. 超音波診断装置について

ACUSON S2000 HELIX Evolution (シーメンスヘルスケア株式会社)



超音波検査は、乳がん検診から術前、術後まで最も多く使用する検査である。特にデンスプレスト（高濃度乳腺）においては、超音波検査が重要な役割を担う。ACUSON S2000 HELIX Evolutionは、プローブを体表にあてるだけで最適な画像を自動で描出。画質調整に必要なボタン操作を大幅に減らすことができるため、検査効率を向上することが可能である。ま

た、超音波で組織の硬さを知ることができる。

d. 核磁気共鳴診断装置について

Magnetom Altea (シーメンスヘルスケア株式会社)



MRI は術前の広がり診断には必須だが、他にも BRCA1/2 遺伝子が陽性の場合は乳がんの生涯発生リスク 20~85%と高く、このようなハイリスクグループに対して乳房 MRI スクリーニングは行うように勧められている。MRI は、ハイリスクグループに対するスクリーニングから術前の検査や転移部位に対する検査まで幅広く使用する。Magnetom Altea は、脳、乳房、腹部、骨盤の DWI 検査時間を大幅に短縮するなど検査で最も多く施行される 2D 撮像の高速化が可能となった。

e. X 線一般撮影装置について

Multix Impact (シーメンスヘルスケア株式会社)



主に、入院時の胸部のレントゲンや骨転移の治療経過観察、また入院時の転倒時などに撮影を行う。MULTIX Impact は、X 線管に取り付けた液晶タッチパネルにて撮影オーダーや撮影条件等の確認や変更を行うことができる所以スタッフが患者とより長い時間コミュニケーションをとることができるので、ポジショニングカメラや CsI 検出器は、子供を含む患者を不要な放射線から保護する。

f. 放射線治療装置について

TrueBeam（株式会社バリアンメディカルシステムズ）



従来の照射方法から最新の高精度放射線治療までカバーした最新鋭治療機器である。定位放射線治療（小さい範囲に対して多方向から放射線をあてる治療）や強度変調放射線治療（IMRT：腫瘍の形状に合わせて照射線の形や強さを変えて行う治療）など安全性を考慮して精度高く短時間に放射線治療を行うことが可能。呼吸などで動く臓器を追尾するシステムが搭載されているため、患者さんは呼吸を止めるなどの負担なく治療を受けることができる。また、高線量率により治療時間を短縮できるというのも特徴のひとつ。乳癌領域において放射線治療は、術後予防照射や再発部位（骨、脳など）への照射など多く使う場面がある。

イ. 医療資材、設備等

購入予算の作成、相良病院の状況確認、中国国内の供給元状況の調査を実施し、日本式サービスを満たし、予算内で実施するためにコストパフォーマンスの良い資材、設備の選定を行った。

図表 22 医療資材、設備等スケジュール

日程	内容
2020年02月01日 2020年02月07日	相良病院の現地調査後、内装イメージ基づき、明細リストの作成
2020年02月09日 2020年02月15日	相良通泰大連医院の資材、設備の市場調査および検討会の開催

2020年02月17日 2020年02月22日	購買総額の見積り作成
2020年02月23日 2020年03月31日	仕入先の選定、売買契約の締結

出所) コンソーシアム作成

2-3. 人材育成

(1)日本への招聘研修

ア. 現地スタッフへの研修

現地主要スタッフに人間ドックを実際に受診してもらい日本式の健診を体験してもらつた。また、相良病院の医療スタッフと意見交換会を実施するとともに、業務マニュアルに則った診療方法の指導を実施した。

研修者：医師2名、看護師1名、経営者1名

図表23 研修スケジュール

日程	時間	研修内容
1/8	14:00	・相良病院概要説明 ・相良病院見学 ・健診センター見学
	17:00	病院食紹介
1/9	9:00	人間ドック受診
	14:00	相良病院附属ブレストセンター見学
1/10	10:00	・大連派遣予定スタッフとの交流 ・AI共同研究に関する打合せ

出所) コンソーシアム作成

現地主要スタッフである研修者からは、人間ドックでの接遇やおもてなしについて、とても感銘を受けたという感想であった。一例として、超音波検査の際に使用するゼリーを温めていたことに驚いたということであった。

また、大連医科大学付属第二医院の乳腺科医師 1 名に対して 1 月から 3 か月間、相良病院にて診療の研修を予定していたが、研修予定の医師の実父が肺がんのステージIV ということが判明したため、やむなく日程を再調整することとなり、本事業期間に完了することができなかった。開院までのスケジュールに組み込む予定である。

(2)現地での教育活動

相良病院の診療における業務を相良通泰大連医院で使用できるマニュアルとして作成した。そのマニュアルを基に、2020 年 2 月に相良病院のスタッフが中国に赴き、現地スタッフに相良病院における診療についての研修、及び意見交換を行い、開院に向けての準備に備える予定であった。しかし、コロナウイルスの影響により 2 月に実施できなかつたため、2020 年 10 月の開院までの間に実施する予定である。

第3章 まとめ

3-1. 事業成果

日本式治療・健診等のノウハウが詰まった女性向けの医療機関及び人間ドックセンターを開設するための事業を遂行した。遂行の途中段階で、予定した中国人医師の親族の病気やコロナウィルスの問題が発生し、必ずしも計画した全ての内容を実施することはできなかつたが、電話会議、ウェブミーティング等の手段を活用し、2020年10月の開院に向けての準備が整ってきたと考える。

(1)現地調査

11月と12月に大連を訪問し、建築予定地の視察、現地スタッフへのヒアリング、大連市政府への訪問を行った。これらの活動により、現地の規制や条件をクリアする経営戦略、広報戦略を立案することができた。また、日本においては、中国における日本企業と法人向けの医療サービスを提供している企業に対し、どのようなニーズがあるのかヒアリングを行った。これらの活動により、人間ドックのメニューの決定及び既存の人間ドックとの差別化戦略を立案することができた。また、開院後には現地の日系企業からの定期検診として受注が期待できる。

(2)日本式女性医療機関及び人間ドックセンターの設立準備

今までの現地調査結果を基礎に、現地でのミーティングとウェブミーティングを実施し、相良病院をモデルに、2020年10月開院時の診療体制を決定し、開院後5年間の事業計画を作成した。

事業計画については、3年目の目標を下記の通り設定し、収支のシミュレーションを行つた。3年目には形成外科を開設し、乳房再建術を開始する。

図表24 開設3年目 目標値

項目	目標値
平均病床利用数	80床
入院 平均診療単価	47000円
平均在院日数	11.2日
延べ外来患者数	91500人
外来 平均診療単価	26670円
全身麻酔手術件数 乳腺科	700件

全身麻酔手術件数 甲状腺科	65 件
全身麻酔手術件数 婦人科	18 件
全身麻酔手術件数 形成外科	60 件
人間ドック 受診者数	10300 件
人間ドック 平均単価	32000 円

出所) コンソーシアム作成

図表 25 収支計画 (単位 : 日本円)

科目名	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
【医業収益】	3,676,134,091	3,955,977,118	4,290,626,130	4,290,232,875	4,290,232,875
【材料費】	1,076,573,135	1,159,131,176	1,259,865,668	1,259,746,876	1,259,746,876
【給与費】	1,662,823,191	1,794,735,252	1,935,633,400	1,935,633,400	1,935,633,400
【委託費】	57,602,163	61,220,213	65,119,058	65,110,265	65,110,265
【設備関係費】	836,809,908	725,104,118	646,010,172	579,121,008	528,954,108
【研究研修費】	22,816,524	22,816,524	22,816,524	22,816,524	22,816,524
【経費】	271,132,505	272,590,836	272,590,836	272,590,836	272,590,836
【医業費用】	3,927,757,426	3,927,757,426	3,927,757,426	3,927,757,426	3,927,757,426
〔医業利益〕	-251,623,335	-208,577,101	-41,835,355	28,644,786	81,698,669

出所) コンソーシアム作成

院内設計及び内装イメージの決定の支援としては、改修して使用する予定の建物を視察し、平面図案に対するアドバイスを行った。相良病院は、患者にとって、使いやすく、患者に寄り添い、癒しを与える療養空間を目指し、設計している。それに対し、中国側から出てきた設計図は、アメニティーのスペースが少なく、患者に対する配慮が少ない計画案であったため、患者を優先するレイアウトにするよう助言を行った。これらの活動により、既存建物を活用する制約の中、現地の要望を踏まえた、相良病院の環境コンセプトを備えた院内設計案を作成することができた。

(3)人材育成

現地主要スタッフに人間ドックを実際に受診してもらい、日本式の健診を体験してもらった。また、相良病院の医療スタッフと意見交換会を実施するとともに、業務マニュアルに則った診療方法の指導を実施した。相良病院の診療における業務を相良通泰大連医院で使用できるマニュアルとして作成した。そのマニュアルを基に、相良病院のスタッフが中国に赴き現地スタッフに相良病院における診療についての研修、及び意見交換を行い、開院に向けた準備に備える。

3-2. 課題

2020年10月の開院に向け、人材募集・育成、マーケティング活動をさらに行っていく必要がある。人材募集について、医師の確保については大連医科大学附属第一病院と連携しているため、問題なく確保可能である。今後、人材育成を重点的に行っていく必要がある。コロナウイルスの影響で、2月の現地での研修会を実施することができなかつたが、10月までに現地のすべてのスタッフに対し、相良病院の医療についての研修を数回実施し、日本式医療の徹底を図る。

また、中国においては、放射線診断に対する拒否反応もあるため、マンモグラフィーによる乳がん検診が広まらないという現状がある。そこで、早期発見の重要性について啓発活動を行っていく。大医科大学付属第一病院の乳腺外科医によると、現在中国にて乳がんと診断される患者の多くは、進行度が高く、したがって予後もよくないということである。相良病院では手術のうちステージⅠとステージⅡの患者が半数以上である。これは、乳がん検診により早期で発見しているためであるため、日本式の乳がん治療について啓発活動を行い、放射線診断や乳がん治療についての正しい知識を広めることが重要だと考える。

3-3. 今後の展開

相良通泰大連病院の目標としている乳がんの年間手術件数は700件である。大連のみで年間6000件の手術件数があり、乳がん検診の精度を向上させて早期発見することにより、手術件数も増加することが見込まれる。

大連の女性医療機関及び人間ドックセンターのビジネスモデルの構築を実現し、将来的に大連への医療機関の増設、及び中国のその他の都市への展開、アジアの国々への展開を進めていきたい。

二次利用未承諾リスト

報告書の題名 中国・大連市における日本式女性医療機関及び人間ドックセンター設立プロジェクト報告書

代表団体名 さがらウィメンズ
ヘルスケアグループ